

魅力発信！えひめ農業NOW

令和元年10月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業振興＞愛媛県農業技術情報サービス
※2 この動向は、10月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

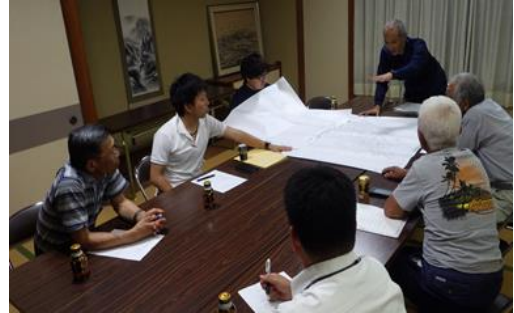
「魅力発信！えひめ農業NOW」（10月分）

東予地方局地域農業育成室

■ 1 法人 100ha 構想に向けて始動

○地域農業育成室は、西条市小松町石根地区の3つの集落営農法人（安井、妙口原、大頭）、を1つにするネットワーク法人の設立に向け支援を重ねており、9月26日に石根地区担い手育成協議会が立ち上がった。

○同室では、3法人を100ha規模で販売額1億円以上となるネットワーク法人とするべく、土地利用状況、農業機械の所有・導入計画を調査し、相互の担い手の連携研修も計画しながら、組織体制や機械の共同利用、新規作物の導入（サトイモ・アスパラガス）及びオペレーターの育成など具体的な項目について協議を重ねている。



石根地区連携協議の様子

四国中央農業指導班

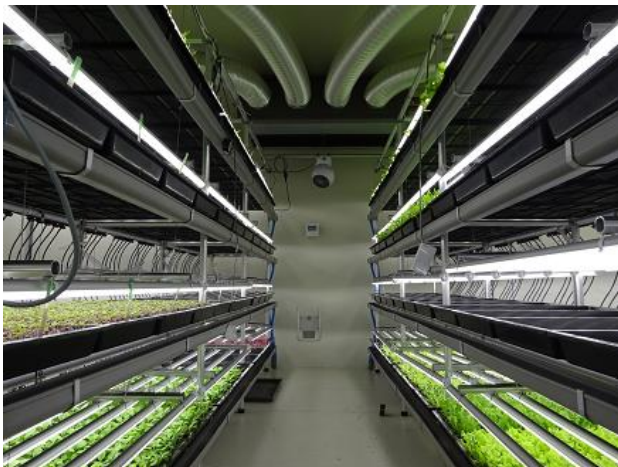
■ LEDを利用した閉鎖型育苗システムで順調な生育を確認

○四国中央農業指導班は、「普及組織先導型革新的技術導入事業」を活用し、四国中央市の業務用サラダ野菜栽培農家に、養液栽培・閉鎖型育苗技術の導入を支援。

○閉鎖型育苗技術は、冬期の日照不足による軟弱徒長や蒸れを改善するため、植物生育用LED（168本）、ヒートポンプ式エアコン等を利用し、照射時間、照度、室内温度を調節し育苗を行うもので、10月2日より、完成したシステムで小松菜、フリルレタス、グリーンリーフの育苗を開始。

○小松菜は、播種15日後に圃場へ定植し順調な生育しており、11月中旬の収穫を見込んでいる。

○農業指導班では、苗質や生育の状況を確認しながら、閉鎖型育苗システムによる育苗技術の確立を目指す。



地元メーカーと制作した閉鎖型育苗システム



播種10日後のフリルレタス
自然光(左)と閉鎖型育苗システム(右)の苗

今治支局地域農業育成室

■カンキツの「マルドリ栽培」シンポジウムが今治市で開催される

- 地域農業育成室は10月10日、JAおちいまばり菊間支店において開催された「養水分制御を基盤とした樹体管理技術の確立による高品質カンキツ連年安定生産の実証」シンポジウム（主催：経営体強化プロ（カンキツ安定生産）コンソーシアム）において、講演と現地検討会での説明を行った。
- 参加者は県内外のカンキツ栽培農家や試験研究機関等79名。
- シンポジウムでは、「省力低コスト化を目指したカンキツ新品種生産の試み」について当室職員が講演。
- また、菊間町松尾地区“松尾坊ちゃん倶楽部”圃場において、かん水やマルチ被覆方法について当室から説明。
- 参加者からは、「マルドリ栽培（年間を通したマルチ被覆＋点滴かん水＋液肥による施肥を組合せた技術）導入により施肥やかん水労力が軽減される」、「高品質によるブランド化ができる」などの感想が寄せられた。



マルドリ栽培について説明

■愛媛県下初の「低コスト簡易ハウス（運動会テント型）」を開発

- 地域農業育成室は、自主施工が簡単な「低コスト簡易ハウス」を開発。
- このハウスは、西日本豪雨災害の復旧・復興における農家の負担軽減やI・Uターン、新規就農者確保、所得向上を目的として開発したもの。
- 同ハウスは、一般的なアーチ型のハウスではなく、三角形屋根の運動会のテントに似ており、大きさは、間口4m、高さ3m、肩高1.8mで、フルオープン仕様。
- 10a当たりの設置経費は、資材費のみだと約150万円、設置費込みでも約300万円/10aで、一般的なアーチ型ハウス（設置費700～900万円）に比べ大きく負担軽減できる。



低コスト簡易ハウス

■ニホンザル対策研修会を開催

- 地域農業育成室は10月3日、鳥獣害対策研修会（ニホンザル対策）を開催し、地元住民や猟友会、関係機関等47人が参加。
- 近年、今治地域では、山間部を中心にニホンザルによる農作物の被害地域が拡大していることから、対策方法についての研修会を開催したもの。
- 講師に、(株)野生鳥獣対策連携センターの阿部豪氏を招き、ニホンザルを中心に野生動物の生態や効果的な対策について学んだ後、現地に移動。シイタケの食害やほだ木を倒す等の被害が発生している園地で、防護と捕獲について指導を受けた。
- 参加者からは、「今日学んだことを、自分たちのやれるところから早速やっていこう」との声が聞かれた。



現地指導の様子

今治支局産地戦略推進室

■第2回オリーブ特産化推進連絡会及び加工研修会を開催

- 産地戦略推進室は10月24日、「しまなみ産オリーブ特産化促進事業」に係る第2回オリーブ特産化推進連絡会を、今治市吉海町において、生産者グループ、地元企業、JA、市、地域おこし協力隊等27名の参加を得て開催した。
- 会議では、オリーブの栽培面積の拡大に向け協議を行い、今治市内に拠点を持つ企業による高収益大規模栽培と、既存の生産者グループを中心とした小規模ながら地元に着目した栽培の2本柱で取組むこととなった。
- また、愛媛県農林水産研究所からは、オリーブオイルの品質調査結果として、「しまなみ産のオイルは時期によりポリフェノール含量や色が異なり、特徴を打ち出して高品質なオリーブオイルを製造するためには搾油時期の検討が必要である」と報告があった。
- さらに10月25日、現地のオリーブ加工施設において、香川県小豆島からオリーブ鑑定士の資格を持つ講師を招いた加工研修会を開催し、高品質なオリーブオイルの搾油技術等の習得を図った。



オリーブ特産化推進連絡会の様子



オリーブ加工研修会の様子

中予地方局地域農業育成室

■期待のオリジナル米「ひめの凜」いよいよデビュー

- 管内では、今年度「認定栽培者」9戸が356aの圃場で、県育成の新品種「ひめの凜」を栽培しており、10月10日から刈取りが始まった。
- 今年は、少雨による水不足のため田植作業の遅れや、生育期中の高温・少雨条件に加え、栽培期間通じて病害虫の発生が多い年であったが、定期的な個別巡回指導や応急防除の徹底により、栽培初年度の収穫を迎えることができた。
- 収穫した米は農家ごとに食味分析を行い、おいしさ基準に基づきランク分けされ消費者に届けられる。
- 地域農業育成室は、今年度の調査データを取りまとめ、地域での適応性の検討結果を元に、「ひめの凜」の導入及び面積拡大を図る。



ひめの凜の刈取り作業

■レモンの産地化に向けて

- 地域農業育成室は10月25日、松山地区農業改良普及事業推進協議会活動の一環として、市町、JA職員とともに広島県のレモン産地を視察。
- 松山地区では国産需要の高まりを受け、柑橘のリレー出荷の1品目として、島しょ部を中心にレモン栽培の関心が高まっており、産地化の動きに対応したもの。
- 視察した大崎上島町は、基盤整備により団地化した園地もあり、国事業を活用して、ドローンによる防除を始めとしたスマート農業にも取り組んでいる。
- 参加者は、レモンの栽培・販売状況について情報収集するとともに、ドローン防除やアシストスーツ、自動灌水システムなどの新たな取り組みについて知見を深めた。



レモン先進地の新たな取り組みについて情報収集

伊予農業指導班

■専門家と連携して若手農業者の法人化を支援

- 伊予農業指導班は今年度、農業経営サポートセンターと連携し、松前町の若手野菜農業者4人に対し、法人化に向けた支援を実施。
- 司法書士、社会保険労務士による継続した経営指導の結果、9月20日に「株式会社まさきRookies」を設立し、10月1日には、法務局への登記申請に至った。
- 10月7日には税理士を招き、税務署への法人設立申請書の届出や青色申告等の税務管理について指導を受け、熱心に質問を行った。
- 指導班では今後、法人が取り組む学校給食用ごぼうの生産についても技術指導等を実施する。



専門家による税務管理指導

■七折小梅の不作要因と対策を提案

- 伊予農業指導班は、七折小梅の不作要因を解明するため、生産農家への聞き取り調査、アンケート及び樹体調査を実施。
- その結果、夏季の土壌乾燥が、翌年結実する枝（花芽）の充実不足に影響を及ぼしていることを推察。
- 9月には一部の園で「茶がす症」と思われる樹勢低下症状が見られており、土壌の乾燥が「茶がす症」の発生を助長していると考えられた。
- 指導班では、これらの結果について（農）ななおれ梅組合役員会で説明したところ、不作要因解明のための灌水実証に取り組むこととなった。



「茶がす症」：ウイルス病。早期落葉し不完全花が多くなり減収。

■革新的技術導入事業のハウスでミニトマト栽培開始

- 伊予農業指導班は、伊予市双海町で「普及組織先導型革新的技術導入事業」を活用したトマトハウス及び養液栽培システムの導入と、定植後の栽培管理等を支援。

- 同施設では 10 月 2～5 日にかけて、ミニトマト 13 種、中玉トマト 3 種の計 16 品種を定植し栽培を開始。順調に生育が進んでいる。
- 指導班では、今後、ミニトマト 5 品種の生育比較調査や、ヤシガラ・ピートモス・パーライト等の配合比率が異なる培地の生育調査を実施し、当システムに適した品種や培地を選定するとともに、装備している 2 系統の給液及び葉面散布ラインの効果等を確認する。
- また、導入農家は同施設で観光経営を行う意向であることから、食味等の消費者ニーズの調査も実施する。



トマトの定植が完了し栽培をスタート

久万高原農業指導班

■第 2 回久万高原ブランドづくり推進会議を開催

- 久万高原農業指導班は 10 月 2 日、局予算「久万高原の漬物向け野菜産地再興事業」に基づく本年度 2 回目のブランドづくり推進会議を開催し、町、JA 等と事業の進捗状況や今後の活動計画について協議。
- 今回は、漬物向け野菜の実証状況のほか、試作した漬物の分析依頼先等を協議するとともに、漬物アドバイザーとして松山東雲短期大学の太塚教授を選定したことを報告。
- また、12 月から 1 月にかけて、漬物の試作・評価や、伝統の漬物技術勉強会を開催することなどを申し合わせた。



事業の進捗状況等について協議

■地域の話し合いによる「人・農地プラン」実質化に向けた支援開始

- 久万高原農業指導班は 10 月 21 日、町と連携した「人・農地プラン」の実質化に向け、畑野川地区中村集落で生産者 15 人との意見交換を実施した。
- これは、従来、広域で作成していたプランを見直し、集落など話し合いができる小規模単位での策定を推進するため実施したもの。
- 当日は指導班から、プランの必要性等の概要を説明した後、担い手の高齢化が進む中、5 年後、10 年後の集落について意見交換を行った。
- その結果、新たなプランを策定することで合意するとともに、本年度、同集落においてトマト栽培で新規就農した 1 名を、中心経営体として位置付けることとなった。
- なお、新たなプランについては、今年度は新規就農者がいる 4 集落を対象として策定を進めることとしている。



将来の集落の在り方について意見交換

中予地方局産地戦略推進室

■東温パクチー「収穫&ランチ会」を開催

- 産地戦略推進室は10月22日、「東温パクチー産地づくり事業」の一環で、東温市において「パクチー収穫&ランチ会」を開催、事前にSNSで応募のあったパクチー好きの一般消費者10名（20～40代の男女）が、生産者や当日パクチー料理を提供した料理人と交流を深めた。
- 「収穫体験」では、パクチー栽培の先駆者 廣川慎太郎氏から、パクチーへの想いや栽培管理のポイントなどを聞いた後、収穫体験を実施。「ランチ会」では、東温市内のイタリアンレストランで、地元産パクチーを使ったオリジナル料理を味わいながら、パクチーを日常生活や家庭料理に取り入れる工夫等について意見を交換した。
- 同室では、今回のイベントで収集した消費者の視点での意見や提案を今後の産地づくりに活かすとともに、新規栽培者の掘り起しや安定生産技術の確立等と合わせて東温パクチーの産地化を支援する。



収穫方法の説明を受ける参加者



パクチーの利用拡大について意見交換

南予地方局地域農業育成室

■若き経営者としての自覚を醸成

- 地域農業育成室は10月11日、就農3年目までの新規就農者の資質向上を図るため、第2回ニューファーマー講座を開催し、新規就農者10名が参加した。
- 講義では、普及指導員が講師となり、「農業次世代人材投資事業（経営開始型）の活用方法」について、事業の目的や交付対象者の要件、活用時の留意点等について説明。
- また、就農5年目で、同事業を活用し柑橘経営を営んでいる若手農業者が、「活用時にやっておくべきこと」、「後悔していること」などを後輩へアドバイスした。
- 参加者からは、「実際に事業を活用した方からの話は参考になった」「補助事業なので約束事を守って取組みたい」との感想があった。
- 同室は1月にも同講座を開催し、新規就農者の技術取得や早期経営安定を支援する。



熱心に取組む新規就農者

■柑橘園地に簡易水洗トイレを設置で労働環境の改善へ

- 地域農業育成室は10月21日、宇和島地区農業改良普及事業推進協議会と共催し、宇和島市吉田町内の柑橘園地3カ所に簡易水洗トイレを設置した。
- これは、摘果や収穫作業を行う女性のアルバイトやボランティアからトイレ設置の要望もあり、平成29年度から柑橘園地での労働環境改善の一環として農繁期に設置しているもので、今年度の設置期間は10月21日～12月20日の2ヶ月を予定。
- 設置した園地の農家からは、「清潔感があり女性のアルバイトを呼び込みやすくなった」「作業時間の短縮にもつながる」との声があった。
- 同室では、設置箇所の増加や吉田町以外への設置が図られるよう、今後も農業者への啓発活動や関係機関への働きかけを行う。



簡易水洗トイレの設置

■お手伝いワーカー導入によりみかん収穫の人手確保

- 地域農業育成室は10月1日、JA えひめ南と連携し「宇和島お手伝いプロジェクト協議会」（会長 南予果樹同志会長）を設立。
- 協議会は、八幡浜で先行している「お手伝いプロジェクト」を参考に、市内柑橘農家の労働力不足解消を目的とした有償ボランティアを募集。
- 柑橘農家を対象に農家説明会を実施したところ、2カ所で64人の参加があり、参加した農家からは、「収穫時期の人手が必要なのでぜひ利用したい」「良い取り組みだと思う」との話があった。
- 同室では、同協議会と連携し、受入農家の登録やお手伝いワーカー（有償ボランティア）確保等を支援し、労働不足の解消を図る。



プロジェクトの説明会

■「ひめの凩」の試食結果は高評価が80%占める。

- 地域農業育成室は10月27日、宇和島市三間町の「第23回美沼の里農協まつり」会場で「ひめの凩」のPRを実施した。
- 当日は、地元の生産者団体「北宇和の凩」が栽培した新米のおにぎりを準備し、来場者に試食・アンケート調査を実施した。
- アンケート（80人）では、いつも食べているお米に比べ80%の人が「ひめの凩が良い」と回答し、「少し甘みがありモチモチ感と香りがあって美味しかった」といったとの高評価であった。
- 同室では、消費者から高評価を得た「ひめの凩」の生産拡大に向け、早期米栽培農家に栽培を推進する。



ひめの凩のPR

鬼北農業指導班

■栗の大規模高収益栽培モデル園の造成

- 鬼北農業指導班は、「普及組織先導型革新的技術導入事業」を活用して設置を進めている栗の大規模高収益技術の実証モデル園（1.5ha）において、10月中旬より伐採を終えた箇所から園内作業道、自動灌水設備及び100m上の山頂に設置する水槽等の整備を支援している。
- また、実証圃場の草管理の省力化のため、倒伏した草が圃場表面を覆う抑草期間の長い、ナギナタガヤの種子 30 kgの播種を行った。
- 指導班では、引き続き自動灌水システム及び園内道等を装備した大規模高収益栽培モデル園の設置を指導し、12月までの完成を目指す。



伐採が進むモデル園



山頂貯水槽の施工

愛南農業指導室

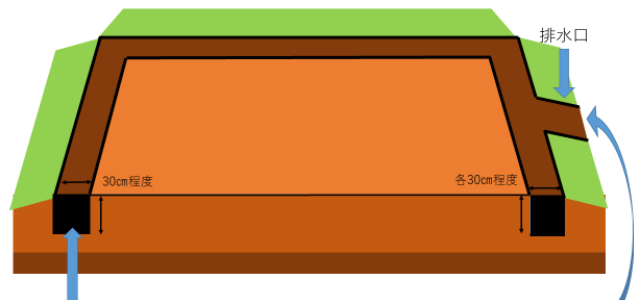
■ブロッコリー高収量安定生産マニュアル「愛南ブロッコリー虎の巻」

- 愛南指導班は10月4日、ブロッコリー生産者のレベルアップのため、管内での高収量・安定生産農家5戸から栽培管理技術や作業のポイントを聞き取り、これを基に「秋冬ブロッコリー高収量・安定生産マニュアル」を作成した。
- マニュアルは、愛南町の気象や土壌・圃場条件における管理作業や肥培管理のポイントと、そのポイントを裏付ける技術的根拠で構成。今回作成した物を第1版とし、今後、内容を追加して改訂版を作成する予定。
- 指導班では、マニュアルを活用し、栽培経験の浅い若い農業者や収量が低い農業者へ栽培のポイントを指導し、愛南ブロッコリーの高収量・安定生産に取り組む。

秋冬ブロッコリー高収量 安定生産マニュアル (第1版)



愛南農業指導班



※明渠は畝間よりも低い位置に掘らなければ畝間に水が滞水してしまう。また、深さを確保しないと降雨等ですぐに埋ってしまう。

※明渠を排水口までつなぐ！また、明渠が排水口よりも低いと水が出ていかないので注意。

完成した高収量マニュアル（一部抜粋）

■河内晩柑の後期落果軽減対策に取り組む

- 愛南農業指導班は、河内晩柑の後期落果の防止対策として、液肥散布による軽減実証に取り組んでいる。
- 後期落果は多い年で3割を超え、既存の落果防止剤は使用回数が1回に変更（以前は2回まで）されたこともあり、効果が不安定となっている。
- 新たな薬剤は薬価が高く、低コストで落果を防止する技術が求められていることから、昨年の実証結果において、果の高かった尿素複合液肥を散布し、収穫期までの落果率や品質を検証するとともに、栽培指針の見直しや新たな技術導入に取り組む。



尿素複合液肥を樹上に散布

八幡浜支局地域農業育成室

■にしようわスマート営農体系実証 みかん園でドローン防除を実証

- 地域農業育成室は10月21日、管内の温州みかん園3か所でドローンによる高濃度農薬の空中散布実証試験を実施。
- この実証試験は、関係機関・団体で組織する西宇和スマート農業推進協議会が次世代につながる営農体系として西宇和地域に導入可能なICT等の先端技術を検討する取組みの一環として実施したもの。
- 当日は、関係機関・団体の関係者や農業者ら10人が見守る中、東温市の業者に委託してドローンによる温州みかん貯蔵病害防除薬剤の高濃度（10倍）散布を3園地約30aで実施した。
- 突風によって散布薬剤が風にあおられる場面もあったが、ドローン自体は非常に安定した姿勢を維持し、ドローン防除が実用技術として十分なことを確認した。



■にしようわスマート営農体系実証 スプリンクラー監視にドローンを活用

- 地域農業育成室は10月26日、川上地区のスプリンクラー防除において、薬剤散布状態の監視用務にドローンを活用する実証試験を実施。
- この実証試験は、ドローン防除に引き続き、関係機関・団体で組織する西宇和スマート農業推進協議会が西宇和地域に導入可能なドローンの有効活用技術を検討する取組みの一環として実施したもの。
- 当地区のスプリンクラー防除は、各ブロックごとに生産者組織の役員6人が散布区域を移動しながら半日がかりでノズルの詰まりや配管の漏水等を目視で確認しているが、今回は、ドローンによる空撮映像によってスプリンクラーの散布状態がどの程度確認できるのかを実証調査した。
- リアルタイムで地上のモニターに映し出されるドローンの空撮画像は、参加者の想像以上に鮮明で、スプリンクラーの動作確認以外に樹体や果実の生育状態等の確認・解析等、その可能性に夢をふくらませた。



■伊方町中浦地区が集落営農法人を目指す

- 地域農業育成室では産地強化に向け、規模経営体の法人化や集落営農の設立を推進しているが、この度、伊方町中浦地区が、集落農地の保全、担い手受入れ体制の確立等を目的に集落営農法人の立ち上げに向けて動き出した。
- 地区リーダーは、地区の将来像を見通したとき、クーラー防除の体制維持、次期中山間直接支払加入面積の減少見込みなど、集落機能の維持そのものに大きな危機感を持っており、町・県との意見交換を重ねて、10月18日、地区農家へ集落営農の組織化について提案を行った。
- 会では、集落営農という仕組みに加え、法人化といった高度な経営手法について理解に苦しむ場面もあったが、地区の現状認識及び方向性は一致し、今後、検討・研修を重ねることとした。



集落役員との検討



集落農家への提案

大洲農業指導班

■「さくらひめ」ブランド化に向け、出荷規格確認！

- 大洲農業指導班は10月24日、JAえひめ中央小田営農支援センター、小田深山地区の生産者に対し、「さくらひめ」の出荷調製方法について指導を実施。
- これは、花き研究指導室で開催した「さくらひめステップアップミーティング」における、出荷規格目合せ会の結果を受け実施したもの。
- 下枝と下葉の処理、草丈の揃え方など、購買者にアピールできる荷姿が市場評価につながることを周知し、出荷調製方法を見直した。
- 内子町小田深山の「さくらひめ」は10月24日から出荷が始まっており、高品質さくらひめの生産に向け、適切な栽培管理・出荷調製の徹底を図り、さくらひめブランドの向上を図る。



生育状況



出荷規格の確認状況

西予農業指導班

■スマート農業の導入に向けドローン防除について学ぶ

○西予農業指導班は10月17日、城川町農作業受委連絡協議会（事務局：西予市）と連携し、中山間地におけるスマート農業の導入に向けた先進技術研修会を開催し、水稻農家と関係機関 27名が参加。

○研修会ではヤンマーヘリ&アグリ株式会社の講師が、農業用ドローンの性能や導入・維持に係る費用、免許取得等について室内で説明をした後、圃場で飛行実演した。

○参加者からは、「導入すれば防除作業が格段に楽になる」「想像していた以上に維持費用がかかることがわかった」「集落での導入を検討したい」等の意見が聞かれ、指導班では今後も、中山間地における労力負担の軽減、作業効率性の向上につながる先進技術の導入に向けて支援する。



ドローン防除について学ぶ参加者

■水稻新品種「ひめの凜」西予市で収穫

○西予市では、認定栽培者16人が約9haで水稻新品種「ひめの凜」栽培に取り組んでおり、10月上中旬に収穫が行われた。

○認定栽培者の一人、河野昌博さんの水田でも青年農業者が見守るなか、「ひめの凜」が収穫され、その様子は西予CATVにも取り上げられPRに繋がった。

○西予農業指導班では、宇和米のブランド化による知名度向上に取り組んでおり、「ひめの凜」はその活動に新風をもたらすものと期待しており、今年度の栽培結果を踏まえ食味と収量を兼ね備える栽培技術の普及、生産拡大に努める。



「ひめの凜」収穫中

■西予市大野ヶ原でニンニクの産地化を検討

- 西予市大野ヶ原では、大野ヶ原野菜部会を中心に四国カルスト 標高 1,100mの高冷地条件を生かしたニンニクの産地化を目指し検討を重ねている。
- 当地域は、東北の気象条件に近いことから、高値で販売される寒冷地用の品種を導入することとし、今年には13人が2年目の実証栽培に取り組む。
- 10月28日の検討会では、指導班、青森県の種ニンニク生産業者、県内の販売業者等を交えて栽培技術のポイントや加工、販路について話し合った。
- 今年収穫したニンニクの品質は青森県産と遜色ないものであったことから、今月植え付けたニンニクを来年6月に収穫し改めて品質等を確認する。
- 指導班は、関係者や生産者と協議しながら、生産者組織の立ち上げ、栽培技術の確立、出口戦略について支援していく。



ニンニク実証圃現地検討会

■宇和高校生へ西予の食文化を伝承

- 西予農業指導班は10月8日、宇和高校で開催した食文化普及講座の支援を実施。
- これは、西予生活研究協議会主催の講座において、より効果的な食農教育を進めるために、新たに高校生を対象に実施することを提案し実現したもの。
- 当日は、同協議会役員6人が講師となり、2年生18人に対して「さつま汁・ツイモの酢の物・おはぎ」の調理指導を行い、指導班が食材や地域食について紹介した。
- 半数の生徒がさつま汁を食べたことがなく、ツイモを知らなかったが、生徒からは「初めて食べたが美味しかった」「家でも作りたい」といった感想が出るなど好評であった。
- 今後も小学生や一般消費者向けの講座を実施するなど、幅広い年齢層への食文化伝承の支援を行う。



食材や地域食の紹介

八幡浜支局産地戦略推進室

■新たな産地づくりに向けた勉強会開催

- 八幡浜支局産地戦略推進室は10月2日、管内市町・地域おこし協力隊・普及指導員を対象に都市と農村の交流による地域活性化勉強会を開催し、20名が参加。
- 講師は、食をキーとした農村と都市の交流による地域活性化にも取り組んでいる(株)マーケティングフォースジャパンの横山秀樹氏。
- 産地づくりに関して、目的・コンセプトの設定、取り組み時の矛盾の解決法、情報発信、販売上のライバル把握等特産品開発時の方法について、具体的事例を示してもらうことで特産品を通じた地域活性化方法の習得に繋がった。
- 同室は、今回の勉強会の内容を活かして関係機関と連携してビジョン品目の販売方法の検討を行う。



特産品開発の方法を習得

■ニラ安定生産に向け防除管理技術を徹底

- 八幡浜支局産地戦略推進室は、10月8日、栽培・販売の問題を共有し解決方法を探る目的でニラ中間検討会をJAひがしうわ城川支所で開催し、10名が参加した。
- 先月行った大阪での販売状況と消費地からの要望調査結果について報告し、市場から夏季出荷の増産要望があり、産地の目指す方向として検討することになった。
- また、今年問題になった病害虫や、当地では初めて発生した病害虫もあり、生産者の関心は高かった。
- 今後は、城川地域の気象条件に合わせた防除体系に随時改定し、安定生産を推進する。



今年の病害虫発生状況を説明

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局産業経済部 産業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局産業経済部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局産業経済部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局産業経済部 産業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局産業経済部 産業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局産業経済部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543